

「(仮)飯山ぷらざ」建設方針

平成 24 年 1 月

飯山市

はじめに

飯山市民会館は昭和37年に開館し、音楽、演劇、芸能などの鑑賞の場や市内の学校、文化団体などの練習や発表の場、さらには集会、式典などの場として、飯山市における様々な芸術・文化活動の中心施設として、多くの市民に親しまれ利用されてきました。

しかしこの間、時代のニーズや利用者のニーズなど、とりまく環境の変化により、駐車スペースの不足やユニバーサルデザインへの配慮、施設の使い勝手の悪さなど、様々な不便さを抱えていることが指摘され利用者の満足度も低下している中、さらには建物本体や音響設備など機器の老朽化や耐震対策が必要であることなどから、早期の建替えが必要になりました。

平成22年度に飯山市が過疎地域に指定され、平成27年度までの過疎地域自立促進計画において市民会館の建て替えが位置づけられたことにより、引き続き、優れた芸術文化の鑑賞の機会の提供や、芸術文化活動の支援を進めるために、平成26年度末の新幹線飯山駅開業までの開館を目指すことになりました。

建設の検討にあたっては、飯山市長が委嘱した15名の委員からなる、「(仮)飯山ぷらざ」建設検討委員会に依頼し、平成23年5月から平成24年1月まで延べ7回にわたり検討を重ねていただき、平成24年1月19日に「(仮)飯山ぷらざ」建設に関する報告書として、検討結果を飯山市長へ報告いただきました。

本建設方針は、検討委員会から飯山市長に報告された報告書及び過疎計画をもとに、新たな市民会館の建設に向けた基本的な考えを建設方針として策定したものです。

-目次-

第1章 現状と課題 p1 ~ p3

- 1、飯山市民会館の現状
- 2、飯山市民会館の課題

第2章 建設方針 p4 ~ p11

- 1、「(仮)飯山ふらざ」の在り方
- 2、基本理念とデザイン方針
- 3、建設場所
- 4、施設機能
- 5、施設規模
- 6、事業費
- 7、運営管理

第3章 今後の取り組み p12

第1章 現状と課題

1、飯山市民会館の現状

昭和37年、飯山市の歴史的シンボルである飯山城跡公園内に建設された市民会館は、音楽や演劇をはじめとする芸術・文化振興の拠点として、子どもからお年寄りまで多くの市民に親しまれ利用されてきました。

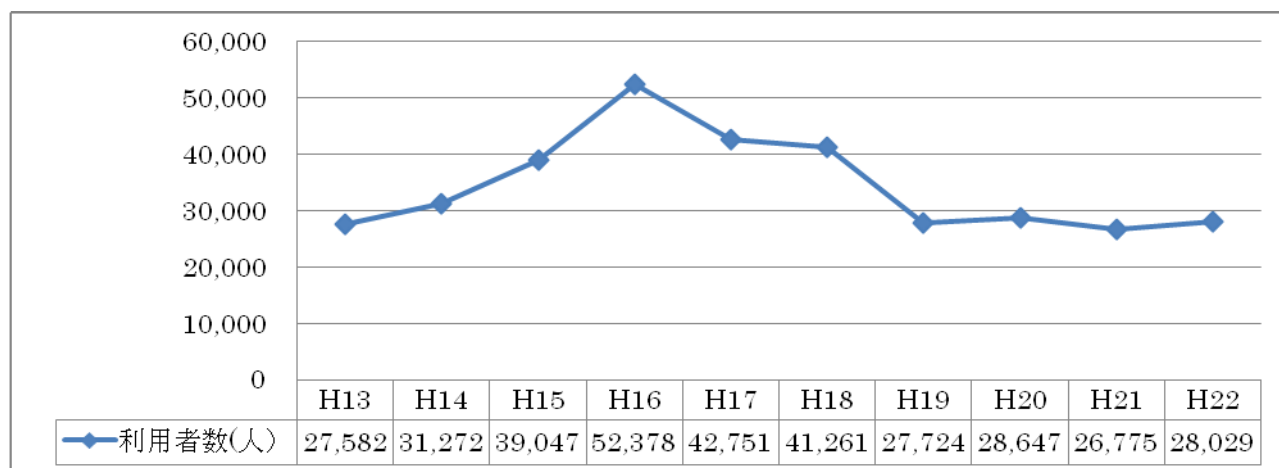
【表1】飯山市民会館の概要

開館	昭和37年10月
経過年数	49年
敷地面積	3,622.5㎡（駐車含まず）
建築面積	1,703.8㎡
延床面積	3,761.5㎡
階数	地上3階（地下1階）
構造種別	鉄筋コンクリート造（RC造）一部鉄骨造（S造）
ホール収容人員	ホール624席（固定席620、車いす4）
その他施設	2F: 第1会議室84㎡ほか2室、3F 大会議室252㎡
維持経費	H20年度968万円、H21年度807万円、H22年度821万円 （人件費除く）
駐車台数	195台（城山公園、高橋まゆみ人形館と兼用）

しかし、平成16年度 52,378 人の利用者数をピークに、平成19年7月に発生した中越沖地震による被害でホール使用が一時閉鎖されるなど、老朽化と併せ建物の耐震性が深刻化し、利用団体の一部は他の施設へ活動場所を替えるなど利用者の数は年々減少傾向となりました。【グラフ1】

【グラフ1】飯山市民会館利用者数 推移（平成13年度～22年度）

単位：人



平成19年度から21年度の最近3か年の施設利用状況から、ホールは土日・祝祭日中心に使用され、施設利用可能日数(概ね300日)に対し25%~30%の稼働率となっています。

また2F・3F会議室は75%を超える稼働率となっており、使用頻度が高くなっています。

【表2】

分野別利用状況では、ホール利用の半数は音楽分野が占め、会議室については舞踏、芸能、展示分野の順で使用されています。【表3】

【表2】飯山市民会館 施設利用日数(稼働率)

	ホール	2F 会議室	3F 会議室
平成19年度	78日(26.0%)	234日(78.0%)	229日(76.3%)
平成20年度	90日(30.0%)	229日(76.3%)	234日(78.0%)
平成21年度	77日(25.6%)	230日(76.6%)	228日(76.0%)

※2F会議室は第1、第2会議室の利用日の総数

※3F会議室は大会議室(小ホール)

【表3】飯山市民会館 分野別利用件数

分野	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
	ホール	会議室	ホール	会議室	ホール	会議室
音楽	34	73	53	30	39	75
芸能	20	91	9	83	15	92
舞踏	7	228	1	223	1	228
集会	13	38	13	3	13	18
芸能祭	12	2	14	0	9	9
展示	0	80	0	46	0	48
その他	2	144	0	188	0	182
合計	88	656	90	573	77	652

2、飯山市民会館の課題

現在の飯山市民会館の主な課題として次の事項が考えられます。

(1) 施設の課題

- ① 建設からすでに49年が経過し、建物や設備など老朽化が著しい状況である。
- ② 現在の市民会館は、建築基準法に合致しない施設であり、耐震診断調査の結果からも建物本体の補強工事が事実上不可能で、近年では度重なる地震の影響を受け、利用者においては活動場所を変更するなど使用を控えるようになった。
- ③ 駐車場不足や急な階段など、多くの市民から使い勝手の悪さが指摘されており、時代のニーズや利用者ニーズに応じた市民サービスには、現施設の改修だけでは限界である。

(2) 立地の課題

- ① 急な坂道を上り下りすることで、特に冬期は足の悪い高齢者や障がい者にとって、不便で行きにくい施設となっている。
- ② 飯山城跡公園内にあり、今後、遺構物の復元など公園整備を計画している中で、文化財保護の観点からも、史跡内に現施設が存在することは将来的に望ましくない。

などが挙げられ、主催者や利用者の双方にとって不便な施設となっており、施設の老朽化や設備の改善、ユニバーサルデザインに配慮した利便性の向上が大きな課題となっています。

なお、こうした意見・要望は飯山市区長会や芸術文化協会などとの懇談会からも同様な意見が寄せられています。

第2章 建設方針

1、「(仮)飯山ぷらざ」の在り方

(1)位置づけと役割

飯山市では、芸術・文化活動を通じ、潤いのある生活や地域づくりを進めるため、優れた芸術文化の鑑賞の機会の提供や活動の支援を推進しています。

しかしながら、市民ニーズが多様化する中、建設当時に求められていた機能と、現在求められている機能とが必ずしも合致しておらず、現市民会館の持つ機能不足を指摘する声が少なくありません。

そのため、現市民会館に替わる「(仮)飯山ぷらざ」では、市民の芸術・文化水準の向上はもとより、日常的な練習や活動を支えていく芸術・文化振興の拠点として、市民が使いやすく、質の高い舞台・音響など設備環境が整ったホールを中心に整備を進めていきます。

また、新幹線飯山駅開業を契機に、市内外の人が集まりやすく利用しやすいまちの交流の場や、観光・展示会など商業的な活動を通じ、回遊性や活性化が期待できるにぎわいの場として、その両面が活かされる複合的な施設として建設をしていきます。

(2)建て替えの必要性

昭和37年に建設された現市民会館はすでに49年が経過し、老朽が進み、使い勝手が悪く、耐震強度も建築基準法の基準に満たない施設として、改築が必要と診断を受けています。

また、現地改築には「(仮)飯山ぷらざ」の建設スケジュールにおいて、長期にわたり芸術文化活動の停滞を招くことや、飯山城跡公園の整備が計画されている中で、史跡内に現施設が存在することは将来的に文化財保護の観点からも望ましくありません。

以上のことを勘案し、上記「(仮)飯山ぷらざ」が目指す役割が達成できる、飯山市街地の別の場所において建て替えることにしました。

(3)市民の資産

現市民会館は、飯山市の芸術・文化の歴史を継承し、その長年の発展に寄与してきたシンボリックな存在であります。その伝統や誇りを後世に引き継ぎ、将来にわたり市民の共通の資産であるため、持続可能で、環境にも配慮した誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに対応した施設とするとともに、地震・水害など災害時の避難所となる機能を備えた施設であることが必要です。

また、早急な建て替えが必要である状況の中、平成27年度までの過疎計画において、過疎債を建設財源として有効に活用していくとともに、併せて国の補助金などについても十分研究し、活用を検討していきます。

さらに、建設事業費と併せて維持管理費についても今後慎重な検討を行い、将来にわたって市民に負担を負わせない、身の丈にあった計画づくりを進めていきます。

2、基本理念とデザイン方針

(1)基本理念

飯山の誇れる、四季折々の彩りがもたらす豊かな自然を背景に、歴史・文化・伝統が活かされる芸術・文化活動をはじめ、機能的で誰もが気軽に利用でき、市民活動をいっそう活発にする「(仮)飯山ぷらざ」の建設実現のため、以下に掲げた基本理念を定めます。

①「質の高い音楽環境が整った 芸術・文化振興の拠点」

市の催事、演劇、コンサートなどに対応ができる質の高い音楽環境が整ったホールを設置し、市民の豊かな感性が磨かれる、芸術・文化振興の拠点となる施設とします。

②「市民が集い、活気あふれる まちの交流の拠点」

子どもからお年寄りまで多くの市民が集い、日常的な利用を支え、芸術・文化活動に加えた教育・娯楽・健康の多面的な活用ができ、市民をはじめとしたまちづくりの交流の拠点となる施設とします。

③「飯山市の魅力を発信する にぎわいの拠点」

人が集う効果を最大限に地域の活性化へと結び付けていくために、大会、地域イベントの開催をはじめ、飯山の魅力を発信する観光事業や展示会など商業的な場として、市内外の人や企業、NPOなどが活動できるにぎわいの拠点となる施設とします。

(2)デザイン方針

基本理念の実現には、歴史・文化など地域の特性に十分配慮した施設であるとともに、環境やユニバーサルデザインなど総合的にデザインの質を高める観点や機能を加えた施設にしていくため、以下に掲げたデザイン方針を定めます。

① 歴史・文化

シンプルで機能的なデザインを基本としながらも、飯山の歴史・文化が感じられ、市民が誇れるデザインの施設としていきます。

② 景観・居住環境

周辺の山並みなどの景観や居住環境に配慮したデザインや形とするとともに、新幹線飯山駅や中心市街地、寺町などとの連続性を考慮した施設としていきます。

③ 自然環境・風土

太陽、風力、地熱、雪などの自然エネルギーの有効活用や、市民生活の知恵など暮らしの風土を活かしながら、自然環境に配慮した維持管理経費のかからない、安全で長く使用できる施設としていきます。

④ ユニバーサルデザイン

子どもから大人まで、誰もが使いやすく利用しやすい、ユニバーサルデザインに基づく設計を基本とした施設としていきます。

⑤ 災害対策

飯山の自然条件を考慮した、雪に強い施設とするとともに、過去の災害の被害を教訓に、また近年頻発している地震等に備え、災害時の避難所機能をもつ施設としていきます。

3、建設場所

建設財源である過疎債の活用を前提とした計画スケジュールにおいて、基本理念に基づく「(仮)飯山ぷらざ」の実現性や建設検討委員会の報告書、市民説明会の結果などを踏まえ、総合学習センターなど文教施設との連携や新幹線飯山駅を中心とする交通の結節点機能、駐車場の有効活用が図れる「現飯山駅西側(田中用地)」【表4】を建設地として事業を進めていきます。

【表4】現飯山駅西側(田中用地)の概要

項目	現飯山駅西側
■想定区域面積	約 10,000 m ²
■法令上の規制	第一種住居地域 (近隣商業へ変更予定) 建築基準法第 22 条区域
■土地の特徴	総合学習センターなど近くに文教施設がある。
■交通の特徴	新飯山駅から 0.4km 最寄バス停から 0.1km
■用地の状況	
□地権者数	2件 (民1)
□建物等補償数	1 件
□用地補償費(概算)	約 300,000千円
□評価	①民地が1件で、用地取得など計画的な事業進捗が図りやすい。 ②文教施設との連携など相互に有効な活用が図れる。 ③新飯山駅に近く、交通の結節点機能が活用でき、市内や広域的な利便性が図れる。

【図1】「仮飯山ぷらざ」建設場所 及び
新幹線飯山駅・文教施設周辺図

新幹線飯山駅周辺整備予定概要

- 土地区画整理事業地区内
 - ・面の整備(7.7ha)
 - ・東口広場(8,000㎡)
 - ・綱切線(W=16m, L=570m)
 - ・駅前線(W=15m, L=104m)
 - ・斑尾線(W=16m, L=78m)
 - ・総合福祉センター移転
- 駅西地区整備
 - ・西口広場(約2,500㎡)
 - ・立体・平面駐車場(200~500台)
 - ・駅西線(W=12m, L=200m)
 - ・斑尾線(W=16m, L=300m)県施行
 - ・西口昇降施設
- JR飯山線飯山駅移設事業
- 駅舎合築施設整備(観光情報案内等)



20ha …全体整備区域
7.7ha …土地区画整理事業区域

平成20年8月撮影

4、施設機能

建設検討委員会から提出された報告書や飯山市で行った市民アンケート、市民説明会の結果を踏まえ、「(仮)飯山ぷらざ」の施設機能は、芸術・文化機能をもったホール施設と、交流・にぎわいなど施設の役割を一層高める付加機能を併せ持った複合施設として整備をしていきます。

なお、具体的な規模、機能、配置等は、「(仮)飯山ぷらざ」建設場所周辺の文教施設や新幹線飯山駅との連携、建設費との検証が不可欠であり、運営も併せ十分な検討を深め、建設計画を策定する段階で決定していきます。

(1) 芸術・文化機能

① ホール施設

ア、質の高い芸術・文化活動に対応できる舞台や音響設備

規模の大きい催事や講演会、演劇、コンサートなどに活用していきます。

イ、多様なニーズに応じられる空間

市民の活動を中心とした発表会、講演会、映画上演、軽音楽、ギャラリーなどに活用していきます。

芸術・文化活動以外にも、施設の有効活用として、商業用展示会(コンベンション機能)や避難所など多様な利用ができるようにしていきます。

なお、ホールの客席数に関しては、大ホールは最大で600席、小ホールは200席程度が必要と考えますが、建設費や維持管理費、運営面などから次のような機能も考えられますので、基本設計の中で検証しながら決定していきます。

・ホールを分割、又は開放したり、客席やステージを移動(可動式)することにより、1つのホールで上記機能をまかなう。

・大、小2つのホールで上記機能をまかなう。

② 付属施設

市民の主体的な芸術・文化活動を支え、ホール施設を一層利便性の高いものにするとともに、誰もが気軽に使える練習場所などの整備をしていきます。

具体的な施設の配置や機能は、基本設計の中で十分に検証し決定していきます。

ア) ホワイエ、楽屋、応接室、ピアノ保管庫など、ホールの関連施設の側面とともに、芸術・文化活動を支える場として整備をしていきます。

イ) 防音機能を備えた練習室やホール内の親子鑑賞室など、市民が気軽に練習や鑑賞ができる場の整備をしていきます。

(2)交流・にぎわい機能

芸術・文化機能に付加機能を併せ持った複合施設として、市民の交流やにぎわいの拠点づくりに、諸施設の充実が必要です。市民アンケートや市民説明会などで要望も多く寄せられており、今後具体化する中で以下にある機能について検討していきます。

また、建設場所の近くには総合学習センターなどの文教施設や新幹線飯山駅の都市機能があり、相互の連携や施設機能の補完・統合を図る中で、十分検証し決定していきます。

①屋内の機能

ホワイエの多機能化などオープンスペースを有効活用しながら、下記のような機能を備えた空間を整えていきます。

- ・ミーティングや学習など気軽に交流ができる場
- ・カフェラウンジなど休息、談話ができる場
- ・軽運動やトレーニングなど健康づくりの場
- ・文化・芸術などを通じ、親子でふれあえる場
- ・催しの紹介や作品、商業など展示・発表の場

②屋外の機能

ホール施設や施設全体を利便性の高いものにするため、駐車場・広場などは十分なスペースを確保し、屋外コンサートや雪まつりなど多様なイベントや若者が集える空間に活用できるよう整備していきます。

③その他機能

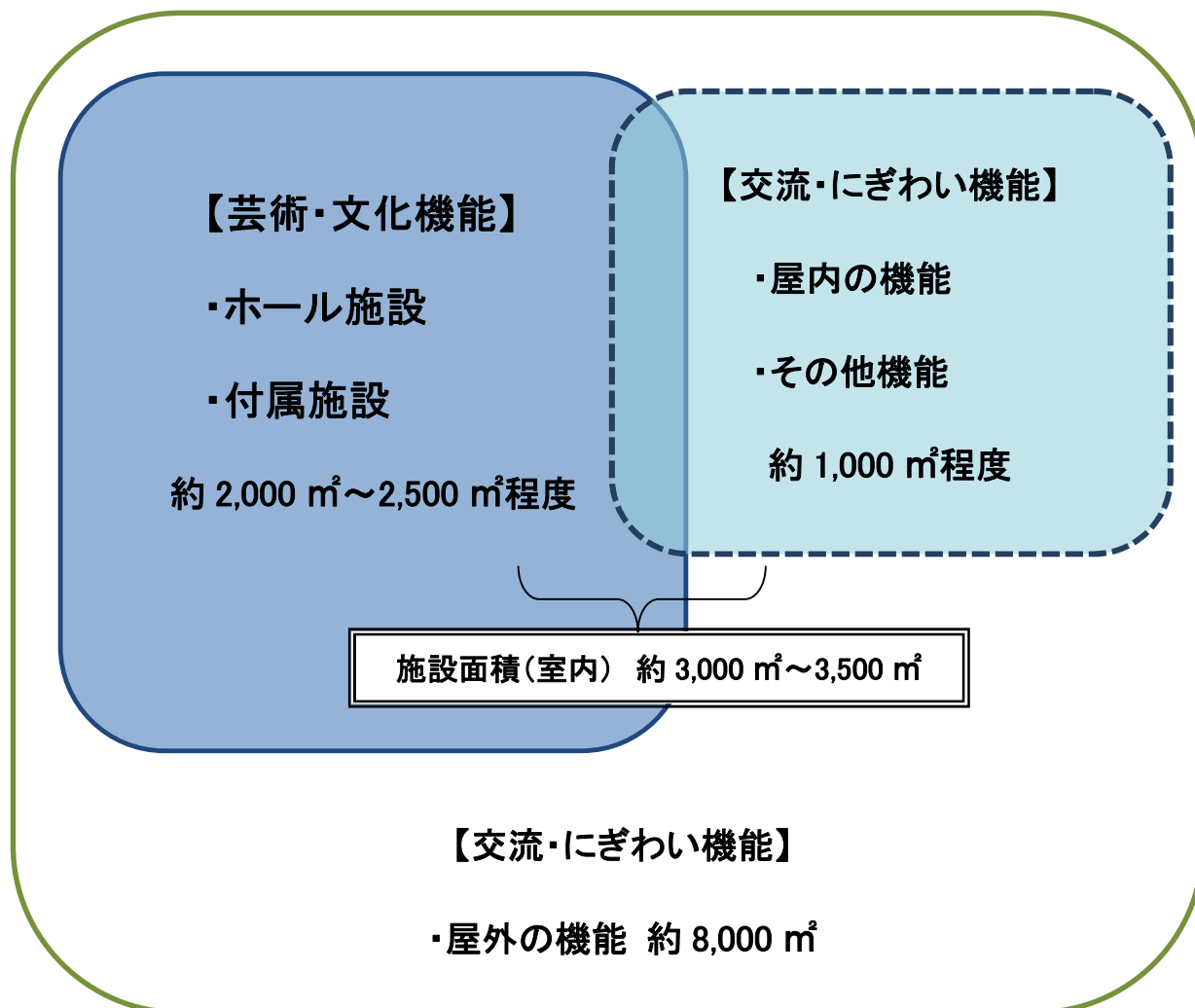
事務室などの管理機能や、トイレ・案内サインをはじめとした施設全体のユニバーサルデザインに配慮した整備をしていきます。

また、観光や行政サービスの要素は、総合学習センターと新幹線飯山駅の都市施設との連携の中で必要なサービスを検討していきます。

5、施設規模

「4、施設機能」で述べた諸機能を考慮し、以下のとおりの組み合わせによって、3,000 m²～3,500 m²程度の施設規模(室内)となります。【図2】

【図2】「(仮)飯山ぷらざ」の施設規模(概算)



6、事業費

建設場所を「現飯山駅西側」とし、「5、施設規模」で述べたように、施設面積規模を 3,000㎡～3,500㎡としたことを考慮し、事業費を下記のとおり算出しました。

「(仮)飯山ぷらざ」にかかる総事業費は現市民会館の取り壊し経費を含め、25億円程度を見込んでおります。

なお、建設財源については過疎債を有効活用し、国からの補助金についても活用できるよう十分研究していきます。

【表5】「(仮)飯山ぷらざ」の概算事業費内訳

	内 訳	金 額(千円)	備 考
事業費	①設計・監理費	100,000千円	
	②調査費	20,000千円	
	③用地費	300,000千円	
	④建設工事費	1,860,000千円	備品購入費含む
	⑤外構工事費	120,000千円	
	⑥現市民会館解体費	100,000千円	
	計	2,500,000千円	

7、運営管理

「2、基本理念とデザイン方針」で掲げた内容を実現していくために、施設全体を一体的なものとして捉え、それぞれの機能を連携させることによって最大化、効率化が図られ、そして、市民の理解が得られるような仕組みを整えていく必要があります。

さらには、周辺地域や市街地全体を含めた視野に立ち、回遊性やまちのつながりを考慮し、飯山市全体に活力をもたらす運営管理を目指していきます。

このためには、市民、事業者、施設管理者、NPO、行政などが協働して、施設の管理だけでなく様々なアイデアを駆使して、持続可能な運営管理を今後十分検討していきます。

- ① 「指定管理者制度」など民間の活力を積極的に導入し、効率性と飯山の魅力をいっそう高める施設にしていきます。
- ② 市民が利用しやすい施設とすることを第一に考え、持続可能な財源計画と、市民の理解に基づいた長期的な運営、維持管理費を確保していきます。
- ③ 企業・財団等の支援を活用し、低コストで質の高い文化・芸術活動を提供していきます。
- ④ 効果的な自主事業の実施と市民活動に対する支援を積極的に進めます。

第3章 今後の取り組み

建設スケジュール等は、北陸新幹線飯山駅が開業する平成 27 年春の開館を目指し、次のように進めていきます。(図3)

また、「(仮)飯山ぷらざ」の建設の目的を達成するためには、多くの市民への十分な情報公開や多様な形で住民意見を聴取し反映させ、住民の視点に立った計画立案、意思決定において合意形成を行い、その機運をいっそう高めていくよう努めていきます。

【図3】 建設スケジュール等(予定)

